



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月9日

上場取引所 大

上場会社名 ゼット株式会社

コード番号 8135 URL <http://zett.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 渡辺泰男

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理統括本部長

(氏名) 山下龍美

TEL 06-6779-1171

四半期報告書提出予定日 平成23年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	29,083	0.8	△828	—	△793	—	△1,021	—
22年3月期第3四半期	28,860	△5.9	△511	—	△464	—	△470	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	△51.60	—
22年3月期第3四半期	△23.65	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭		
23年3月期第3四半期	20,813	—	7,980	—	38.3	406.97
22年3月期	20,860	—	9,145	—	43.8	460.46

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 7,980百万円 22年3月期 9,145百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	4.00	4.00
23年3月期	—	0.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,500	0.7	△670	—	△620	—	△540	—	△27.20

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 20,102,000株 22年3月期 20,102,000株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 492,731株 22年3月期 239,259株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 19,804,392株 22年3月期3Q 19,878,492株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書レビューの手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

注. 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の景気対策効果や新興国向けの輸出増加など、一部に景気回復の兆しがみられたものの、急激な円高や株価低迷に加え、雇用情勢は厳しく、依然として先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当スポーツ用品業界におきましても、デフレ環境下の販売競争は一段と厳しさを増すなか、消費者の買い控えや低価格志向は更に強まり、業界を取り巻く経営環境は、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の中で当社グループは、①IT技術を駆使して効率化を推進するとともに、量から質へ、売上指方向から利益指向への転換を進め、高付加価値低コスト経営の会社に変革すること、②自社品を拡充し、メーカーポジションを確立すること、③効率的・機能的流通業態「FIMA（流通統合管理機構）」を確立することを基本方針とし、業績向上に努めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は29,083百万円（前年同四半期比0.8%増）、営業損失は828百万円（前年同四半期は営業損失511百万円）、経常損失は793百万円（前年同四半期は経常損失464百万円）、四半期純損失は1,021百万円（前年同四半期は四半期純損失470百万円）となりました。

部門別の業績は、次のとおりであります。

①スポーツ事業

(卸売部門)

卸売部門は、少子化や長引く個人消費の低迷に加え、デフレ下の価格競争激化による影響が大きく苦戦を強いられました。そのような状況の中、「外商・スクール」及び「アスレ」マーケットは、野球・ソフト用品、テニス・バドミントン用品は、苦戦が続いているものの、ランニング市場が順調に推移したことに加え、バスケットボール用品やサッカーワールドカップ効果もありサッカー用品が堅調に推移したことにより、増収となりました。「ライフスタイル」マーケットは、アウトドア用品は登山人気により堅調に推移したものの、トレンドの変化や価格競争激化による販売単価の下落の影響により、スポーツアパレル、フットウェアは大苦戦を強いられ、またウィンタースポーツ用品も苦戦を強いられたことにより低調に推移いたしました。「ボディケア」マーケットは、消費者の健康志向は引き続き高く、「コンプレッション」アンダーウェアや健康シューズの人気も引き続きしており、堅調に推移いたしました。また、新規事業として「サイクル用品」の販売に本格的に取組みはじめ、新規市場の開拓を推し進めました。

この結果、売上高は26,765百万円(前年同四半期比0.8%減)となりました。

(製造部門)

製造部門は、商品企画、開発力、品質管理を強化し、メーカーポジションの確立に努めたものの、卸売部門の影響を受け、野球・ソフト用品は苦戦を強いられましたが、バスケットボール用品が堅調に推移したことや健康関連用品において、「加圧」トレーニング専用ウェアが、販売促進強化に努めたことにより、堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は628百万円（前年同四半期比1.1%増）となりました。

(小売部門)

小売部門は、「山ガール」と呼ばれる女性層の増加等によりアウトドア人気は引き続き高いものの、個人消費低迷の影響により高額商品の動きが鈍化し、アウトドア用品は苦戦を強いられました。アパレル・フットウェアは、トレンドの変化や個人消費低迷の影響は大きく、スキー用品も若者のスキー離れもあり、大苦戦を強いられました。

この結果、売上高は760百万円（前年同四半期比12.5%減）となりました。

(その他部門)

物流部門は、作業効率改善に努めましたが、卸売部門の影響による取扱高の減少や小口多頻度出荷や流通加工の増加によるコストアップを吸収出来ず、苦戦を強いられました。一方、スポーツ用品業界に特化した共同物流の合弁会社㈱ジャsproは、新しい物流戦略の構築に向け、順調に推移し、売上高増加に貢献いたしました。スポーツ施設運営は、会員獲得に対する競争がより一層激化し会費単価がダウンするなど、苦戦を強いられ、低調に推移いたしました。

この結果、売上高は928百万円（前年同四半期比148.5%増）となりました。

上記の結果、スポーツ事業の売上高は29,083百万円（前年同四半期比0.8%増）、営業損失は828百万円(前年同四半期は営業損失467百万円)となりました。

②アパレル事業

平成21年9月に事業から撤退しております。

この結果、アパレル事業の売上高はなく、営業損失は0百万円(前年同四半期は営業損失44百万円)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債、純資産の状況)

①資産

当第3四半期連結会計期間末の総資産は20,813百万円となり、前連結会計年度末に比べ47百万円減少いたしました。

流動資産は14,941百万円となり、前連結会計年度末に比べ142百万円増加いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金が1,587百万円減少したものの、現金及び預金が837百万円、商品及び製品が933百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は5,871百万円となり、前連結会計年度末に比べ190百万円減少いたしました。これは主に、投資有価証券が104百万円減少したこと等によるものであります。

②負債

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は12,832百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,118百万円増加いたしました。これは主に、賞与引当金が147百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が1,251百万円増加したこと等によるものであります。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産は7,980百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,165百万円減少いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が33百万円減少し、また、剰余金の配当79百万円及び当第3四半期純損失1,021百万円を計上したこと等により、利益剰余金が1,101百万円減少したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、営業活動により1,131百万円獲得し、投資活動により34百万円使用し、財務活動により259百万円使用した結果、前連結会計年度末と比べ837百万円増加し、2,940百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1,131百万円(前年同四半期比728百万円増)となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失865百万円の計上や、たな卸資産の増加938百万円による支出があったものの、売上債権の減少1,587百万円や仕入債務の増加1,251百万円による収入があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、34百万円(前年同四半期比25百万円減)となりました。これは主に、長期貸付金の回収による収入5百万円があったものの、有形固定資産の取得による支出32百万円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、259百万円(前年同四半期比53百万円増)となりました。これは主に、長期借入れによる収入300百万円があったものの、長期借入金の返済による支出318百万円や短期借入金純減少額100百万円、配当金の支払額78百万円があったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年3月期通期連結業績予想につきましては、概ね予想の範囲で推移しているため、平成22年11月9日に公表いたしました連結業績予想に変更はございません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として、合理的な方法により算出する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

①会計基準等の改正に伴う変更

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。これにより、営業損失及び経常損失に与える影響は軽微であり、税金等調整前四半期純損失は9百万円増加しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は11百万円であります。

②表示方法の変更

「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成20年12月26日）に基づき財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令（平成21年3月24日 内閣府令第5号）の適用に伴い、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純損失」の科目を表示しております。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,940	2,102
受取手形及び売掛金	7,880	9,467
商品及び製品	3,581	2,647
仕掛品	84	73
原材料及び貯蔵品	84	91
繰延税金資産	159	187
その他	221	242
貸倒引当金	△10	△13
流動資産合計	14,941	14,799
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	4,302	4,298
減価償却累計額	△2,758	△2,677
建物及び構築物(純額)	1,544	1,620
土地	2,443	2,443
その他	1,183	1,110
減価償却累計額	△893	△884
その他(純額)	290	226
有形固定資産合計	4,278	4,291
無形固定資産		
その他	50	54
無形固定資産合計	50	54
投資その他の資産		
投資有価証券	733	837
長期貸付金	50	49
敷金	363	392
繰延税金資産	32	32
その他	510	517
貸倒引当金	△147	△113
投資その他の資産合計	1,542	1,716
固定資産合計	5,871	6,061
資産合計	20,813	20,860

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,903	7,652
短期借入金	1,044	1,117
未払法人税等	8	10
未払消費税等	12	10
賞与引当金	159	307
その他	549	564
流動負債合計	10,679	9,663
固定負債		
長期借入金	472	518
繰延税金負債	130	45
退職給付引当金	333	322
その他	1,216	1,165
固定負債合計	2,153	2,051
負債合計	12,832	11,714
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,005	1,005
資本剰余金	2,968	2,968
利益剰余金	3,883	4,985
自己株式	△70	△41
株主資本合計	7,787	8,917
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	195	229
繰延ヘッジ損益	△0	0
為替換算調整勘定	△2	△1
評価・換算差額等合計	193	228
少数株主持分	—	—
純資産合計	7,980	9,145
負債純資産合計	20,813	20,860

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	28,860	29,083
売上原価	22,679	22,754
売上総利益	6,180	6,328
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	632	620
運賃及び荷造費	472	469
貸借料	360	321
役員報酬及び給料手当	2,571	2,492
貸倒引当金繰入額	48	41
賞与引当金繰入額	160	151
減価償却費	133	138
その他	2,310	2,921
販売費及び一般管理費合計	6,691	7,157
営業損失(△)	△511	△828
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	13	14
受取賃貸料	18	16
業務受託料	14	14
その他	39	39
営業外収益合計	87	86
営業外費用		
支払利息	13	15
売上割引	19	29
その他	6	7
営業外費用合計	40	51
経常損失(△)	△464	△793
特別利益		
貸倒引当金戻入額	20	11
固定資産売却益	—	2
特別利益合計	20	13
特別損失		
減損損失	23	—
事業撤退損	21	—
投資有価証券評価損	—	52
リース解約損	—	23
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	9
特別損失合計	44	85
税金等調整前四半期純損失(△)	△488	△865
法人税、住民税及び事業税	28	19
過年度法人税等	43	—
法人税等調整額	△70	136
法人税等合計	1	156
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△1,021
少数株主損失(△)	△19	—
四半期純損失(△)	△470	△1,021

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△488	△865
減価償却費	146	150
減損損失	23	—
事業撤退損失	14	—
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△2
投資有価証券評価損益(△は益)	—	52
貸倒引当金の増減額(△は減少)	15	30
賞与引当金の増減額(△は減少)	△201	△147
退職給付引当金の増減額(△は減少)	14	10
受取利息及び受取配当金	△14	△14
支払利息	13	15
売上債権の増減額(△は増加)	1,863	1,587
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,630	△938
仕入債務の増減額(△は減少)	1,047	1,251
未払消費税等の増減額(△は減少)	△52	2
その他	△146	19
小計	605	1,150
利息及び配当金の受取額	14	14
利息の支払額	△13	△15
法人税等の支払額	△203	△18
営業活動によるキャッシュ・フロー	403	1,131
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△56	△32
有形固定資産の売却による収入	—	3
無形固定資産の取得による支出	△2	△0
投資有価証券の取得による支出	△3	△4
長期貸付金の回収による収入	10	5
長期貸付けによる支出	△6	△6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△59	△34
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△100
長期借入れによる収入	200	300
長期借入金の返済による支出	△266	△318
配当金の支払額	△138	△78
少数株主からの払込みによる収入	16	—
その他	△16	△61
財務活動によるキャッシュ・フロー	△205	△259
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	136	837
現金及び現金同等物の期首残高	2,776	2,102
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,913	2,940

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	スポーツ事業 (百万円)	アパレル事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	28,847	13	28,860	—	28,860
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	28,847	13	28,860	—	28,860
営業損失(△)	△467	△44	△511	—	△511

(注) 1. 事業区分の方法

商品及び製品の種類性質及び販売方法の類似性を考慮し区分しております。

2. 各区分に属する主要な事業内容

事業区分	主要な事業内容
スポーツ事業	野球用品、サッカー用品、テニス・バドミントン用品等の卸売、野球用品、健康用品等の企画・製造・販売、スポーツ小売、その他スポーツ附随事業
アパレル事業	アメリカのジュエリーブランドである「ロイヤルオーダー」のアパレル製造・販売

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める本邦の割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

海外売上高が、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

[セグメント情報]

当社グループは、スポーツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

なお、アパレル事業については平成21年9月に撤退しております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。